

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日
		指定年月日	平成14年11月1日
法人名	有限会社 仙口		
事業所名	グループホーム みやまの里		
所在地	( 258-0001 ) 神奈川県足柄上郡松田町寄4165		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	6名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果 市町村受理日	平成30年7月18日

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かで利用者の方々ゆったりと自由に過ごせる家庭的な場所であり、自分らしく生活して頂けるよう職員や地域の方々と自立に向けて大切な時間を、心身機能の維持、回復、増進に努め町内会や地域連携、根付いた活動を大切にグループホームづくりに努めます。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年3月16日	評価機関 評価決定日	平成30年5月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線とJR御殿場線が交差する新松田駅から「寄(やどろぎ)」行きバスで25分、終点で下車して徒歩5分の場所にあります。緑豊かな山あいの里には桜並木があり、川に沿って整備された道路が通っています。民宿の一部をグループホームに変えて運営しています。

<優れている点>

広い玄関には、鹿のはく製があり、木々の枝で作った飾り物が、もとの民宿の姿を残しています。表の広い庭では、洗濯物を干したり、花や野菜で季節が感じられます。事業所は、地域の防災上の避難場所になっています。玄関横の大広間には、300体程のひな人形の段飾りを所狭しと飾り、社長手づくりの吊るし雛も飾っています。手づくりの料理は、山菜はもちろん、旬の野菜を豊富に使い、話題に事欠くことはありません。地域の行事には豚汁をふるまい、祭りを盛り上げています。昼食の後、好天の日は利用者全員で川に沿った広い道を散歩するのが日課になっています。年に1~2回、山北駅前の温泉に行き、気分転換を図っています。

<工夫点>

利用者は月に一度100円ショップに出掛け、一人1,000円まで(9品)の買い物をしています。自ら品を選び、自分で支払うことを原則にしており、自発性の促しと楽しみの外出となっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	その人らしく常に生活が出来るよう全員でその理念を共有し実践につなげています。	個室フロアの廊下に企業理念を掲示しています。毎日の生活の中に「人間愛」を大事にし、「その人らしく」暮らしてもらうことを最重要と考えています。職員は理念を念頭に置き、日々実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には常に参加し、お祭りなどは一緒に会食などもし交流を深めています。	地域の幼稚園の子供たちが3月の吊るし雛と9月の月見の行事の折に訪問してくれます。寄地区全体の祭りとして、道祖神のある広場でのどんど焼きや松田町の若葉祭に参加し、地域交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者や職員は地域の会合や行事に参加し、認知症の人の理解や支援のお願いをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には地域の方や町、社会福祉の方々で利用者へのサービスや評価をして、サービス向上に活かしています。	運営推進会議は年に4回実施しています。介護現場での気づきや利用者の暮らしぶりを紹介しています。利用者の様子を身近に知ってもらうことで顔の見える関係作りがされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	常に連絡を取り密に話し合い、より良い関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の人の受け入れでは、市の生活福祉課職員と密に連絡を取り合っています。市の観光協会で実施するイベントに出品したり、商工祭りや産業祭りに参加しています。また、福祉に関するアンケートや研修の案内をもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを職員全員で禁止をし、その人らしい取り組みをしています。	身体拘束は原則禁止としています。「外に出たい。」という利用者への対応では、職員と一緒にいき、本人が納得したうえで、戻ってくるのがしばしばあります。スピーチロックやドラッグロックについても弊害を認識し、行っていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は絶対にあってはならない行いである。職員、利用者で見過ごしのないよう注意を払って防止に努めます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人、日常生活自立支援事業の方々と毎月話し合う機会が有り、しっかり活用出来るよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明をし理解、納得の上で契約をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が訪ねられると利用者、職員等いろいろ話し合い、生活の向上に反映させています。お茶など共にする	面会に来た家族にも一緒に昼食をとってもらい、親しく、気安く接するようにしています。その上で気づきや相談事を話してもらっています。家族には、実家に帰ってくるような雰囲気づくりを心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃話し合いは常に日常的に行い、改善し反映させている。	日報を記録する時間に、職員が皆で話題を共有したり、意見を出し合っています。利用者を肯定し、ポジティブな側面に着目した前向きの話をしています。	個々の利用者について、非日常の機会などで、日頃思っていることを聞いて書き留めておき、カンファレンスの時などに共有し、介護計画に反映することも期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員も努力や実績を生かして、職務状況を各自が向上心をもって働いています。条件の整備に常に気をつけて努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者、職員には年数回の研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていく事を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	訪問して頂く事が有り、カラオケや食事と一緒に取り、遊びやゲーム等サービスの向上を計っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者さんの話を聞くことが第一で早くまわり人になじんでもらう。一緒に同じ喜びを味わってもらう。例 歌を一緒に歌ったり昔の話を聞きだしたり共有出来る事をする事がその人の安心を確保する事だと信じ努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	私共施設が一番の良い所だと自負しています。家族の方々の考えや望んでいられる事を話し合える環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の時、本人の生活や家族との関係を知った上でその人らしい生活や支援を見極めサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職務は3度の食事は同じテーブルで6人の利用者さんと仲良く普通の家族の暮らしをするようすてきな関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人らしい生活は家族に伝え、見学や手紙のやり取りをし大切な絆を支援し、すてきな家族関係を築いてほしいと念じています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠い人達の絆は手紙を出す支援に努めています。追伸で返事を頂けるよう頼んだり馴染みの人には時折来て下さるよう頼んだりして支援に努めています。	家族や友人との手紙のやり取りの継続を支援しています。また、編み物や縫物の得意な人には、その特技を続けてもらえるようにしています。生け花は年に2回特技を活かす機会があり、活かしてもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	同年齢が5人ですので話をすると皆様にとって仲良く同士だと関係が最高です。何時間も過ごせています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りをした利用者の家族の方と8年も経っても交流が有り、時折利用者さんを見舞下さいます。他は相談など話し合いながら支援に努め大切にしたいと思っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方が有ったそれを聞き入れ、希望や意向を踏まえ本人に沿った答えを出していくよう検討していく。	本人の思いを聞くタイミングとして、食事の時や少人数で外出する時などの機会があります。親しみをもって内緒話的に呼びかけるなどして、話を聞きだしたり、そっと確かめることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らし方や馴染みの品々など生活にあった環境作りに、サービス利用の経過を見定めながら全員が同じ生活が出来るよう勤めていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい一日の生活を理解しながら状況を把握し楽しい生活が出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	町関係、福祉協議会の人、本人、家族の意見を反映しアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に沿って実施している中で、不都合があれば管理者から代表、そして依頼しているケアマネジャーに伝えるようにしています。現在、介護計画からくる「本日のサービス内容」の実施の有無を毎日「○」で表示するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、実践、結果は個別に記録、記入。情報を共有しながら介護を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々既存のサービスに捉われない普通の家族生活の様に取り入れてゆくように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、自治会長、病院、月2回おひさまクリニック往診。警察週1、2回見回り。消防年2回検査。豊かな暮らしをしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	おひさまクリニック、月2回の往診でしっかり管理し適切な医療を受けて支援している。	協力医の「おひさまクリニック」の医師が看護師と共に月2回往診し、全員を診察しています。医師とは24時間連絡が取れる体制となっています。協力歯科医院は近くにあり、通院で受診しています。特別養護老人ホームとも連携しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	鶴巻訪問看護ステーションに伝え相談。看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院、Dr方との連携で情報交換も出来、病院とも良い関係作りができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	末期に向け早いうちに家族と話し合いを行う。事業所で出来るだの事はする支援に取り組んでいる。	重度化した場合に備えて、本人と家族の意思を確認しています。信頼のおける医師と連携しており、ここで終末期を迎えたいと希望した場合には、家族に宿泊場所を提供するなど、適切な支援をしています。ターミナルケアについての講習会にも出席しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当をし119番に電話番号をし指示を受けながら実践力を身につけている。対応方法は目に付く所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署員と共に、利用者、職員が避難出来る方法を身に付けて、避難場所を持土地河川側駐車場に避難。備品は事務所入口に用意し誰でも持ち出せる。	避難訓練は年に2回実施して、消防署の協力を得ています。管理者が地元消防団の分団長をしていて、任されています。事業所の大広間と駐車場は地域住民の避難場所ともなっており、食料などの備蓄品は多めに保管しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	充分気をつけ一人ひとりの人格やプライバシーの確保。言葉かけに注意し気を遣って支援しています。	言葉かけには十分に注意しています。男性は名字に「さん」付けで呼びますが、女性は名前を呼ぶことも多いです。個人にかかわる書類は、鍵のかかる事務室に保管しています。個人情報やプライバシー確保についての外部研修にも参加しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	月に1回は買物やドライブ、花見と代わる代わる外出する。希望があると温泉にも行く。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合った生活を送っています。ほとんど共同で楽しく過ごす方が多い。見守りながら支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	皆さん思い思いのおしゃれをしています。一か月一回、理髪、美容と行います。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	リクエストメニューがあります。テレビを見ていると食べたいねとすぐに同じ物を作ります。小規模の出来る事です。食事は職員と全員一緒。片付け準備も利用者さんと一緒にします。	食材は地元のスーパー3店舗から購入しています。代表者、管理者ともに調理師免許を持ち、バランスのとれた食事を提供しています。メニューには利用者の希望を取り入れ、外食もしています。利用者は配膳や下膳、できる範囲で調理も手伝っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	旬の物や珍しい物を食に入れ、目で楽しみ栄養のバランスを確保し一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	習慣づけています。食後は必ず声掛け、今の所自分で出来ない人がいない為今後ケアに力を入れる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間を決めて声掛けし、一人ひとりに合わせて排泄を自立に向けるようケアを行っています。	排泄チェック表を活用して一人ひとりのパターンを把握し、見守り、声掛けを行っています。日中は全員がトイレを利用するように支援しています。夜間は時間を決めて巡回し、適切なトイレ誘導に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の人は今まであまり居られないが、食事に工夫したり歩く数を多くしたり個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は一人ひとり違った考えやタイミングで決めてしまえない。個々に応じて支援しています。	浴室は1階に2ヶ所、2階に1ヶ所あります。現在は機械浴の設備がある2階の浴室を使用しています。週に2回入浴し、職員が1対1で対応していますが、自分でできることは自分で習慣になっています。入浴時、湯は流したままにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝はあまりされない。夜は8時過ぎに床に入られてテレビは9時迄で、ゆっくり眠れるよう支援している。0:00に見守り。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員薬の内容を把握し、その都度手渡し飲む迄見守り。変化はDrに情報を提供。保管は処方箋ケースに入れ保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとり自由な生活をしています。手伝いの役割もあり、ゲームや遊びにも役割が出来ています。毎日嗜好品は変えて楽しみごとに力をいれた支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月1回スーパーへ出掛け、自分で品物を選びレジで会計をします。店の方々にも協力してもらい本人が楽しめる様支援しています。	天気のよい日に、付近の川沿いの道を散歩することが日課となっています。山北駅前温泉まで遠出することもあります。月に1度100円ショップに行き、商品選びからレジでの支払いまで利用者が自分で行って買い物を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物のお金は一人ひとりに渡し、理解した使い方を支援しながら楽しんでいきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書くことを心掛けて指導しています。（必ず追伸に返事を下さいと書き加えます）手紙の返事を楽しみに待っておられ届くと大変嬉しそうで元気になります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感や季節感を目や心で感じる居心地の良い空間を作り、楽しく過ごせる共用場を工夫しています。	大広間は種々のイベントに利用されています。3月は雛人形と吊るし雛が所狭しと飾られ、近所の幼稚園の園児が見学に訪れています。廊下や居間には生花が飾られ、利用者の外出時の写真も展示しています。共用空間は職員が毎日念入りに清掃しており、気持ちよく過ごせる場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間は利用者は一人ひとり自分の居場所が決ってしまう。思い思いに過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物が居室に持ち込まれています。花を生けたり人形を飾ったり本人が居心地良い工夫をされています。	8畳間に板の間付きの広い居室です。エアコン、テーブル、クローゼットは備え付けで、介護用ベッドはリース契約で事業所が用意しています。毎朝、利用者の居室に全員が集まって、一緒に朝食を摂っています。利用者が主体で、職員は手伝う形で、毎日清掃をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全な環境作りに力を入れています。利用者が自分で好きな様に空間など変えて工夫しています。		

平成29年度

## 目標達成計画

事業所名グループホーム みやまの里

作成日：平成30年 7月17日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		家族との絆がない方々なので、人間関係を最も大切に支援し築いていく事。	普通の日常生活の一部として、買物や外食等を楽しんでもらえる支援に努める。	全員で月に一度は外出し、買物は自分で出来る様支援しています。皆さんがレジで会計が出来る様になりました。	12ヶ月
2		市町村との連携、グループホーム協議会、小田原グループホーム連絡会、足柄上地区介護支援センターとの会合、講習会への参加。	出来るだけ多く介護者に講習会に参加してもらい、知識や実技を身に付けてもらう。地域の連携を大切にしたい。	介護者が参加、大変勉強になった。今年度は町の施設や小田原マロニエ、南足柄市文化会館で受講する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月